

| | |
|-----|--|
| 学校名 | 庄原市立東城中学校 |
| 校長名 | 光久 孝治 |
| 所在地 | 広島県庄原市東城町川東5 2 2 7 番地 |
| H P | http://www.city.hiroshima.jp/kyouikubaku/touzyou-chu/tojo-tops.asp |
| 学級数 | 7学級 |
| タイプ | タイプ |

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

論理的思考力とコミュニケーション能力の育成
～「言語技術」を活かして～

(2) 研究のねらい

「ことばの時間」を特設し、「言語技術」の習得を進める。
教材の開発を東城小学校と連携して行い、義務教育9年間の「言語技術」カリキュラムを作成する。
教科のねらいに沿った「言語技術」指導を試みる。

(3) 研究組織・体制

校内ではパイロット教員・教務主任・研究主任・学年ことばの時間担当でミーティングをし、研究の進め方を検討した。
東城小学校との連携では、「ことばの教育」にかかわる研究授業はすべて合同で実施した。

2 2年間取り組みの概要

(1) 平成17年度の取り組み

「ことばの時間」を特設し、5月末から「言語技術」の指導を全学級週1時間、時間割の中に位置づけて実施した。
基本的に全学級、T T指導で実施している。
1学期はパイロット教員が中心になり、学年の国語科教諭がT 2となって指導してきたが、2学期からは担任や副担任も加わり、全員で指導をした。

「言語技術」の指導内容

- ・受け答えをする技術（問答ゲーム）
- ・要点をまとめる技術（再話）
- ・情報を正しく伝える技術（描写・説明）
- ・情報を的確に分析する技術（絵・テキストの分析）

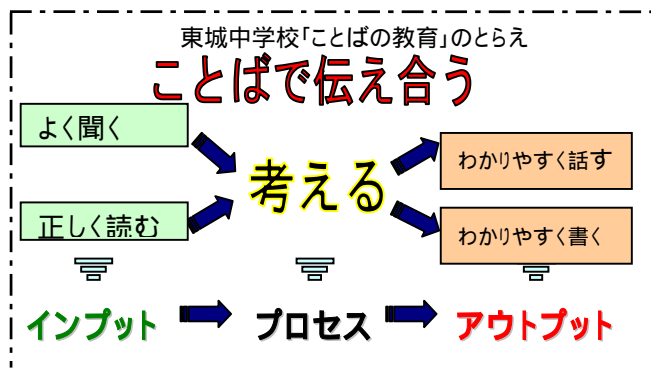
研究公開（小中合同）

学年1学級ずつ「ことばの時間」授業公開

校区内の小学校で出前授業、東城小学校パイロット教員とT T指導の実施。

(2) 平成18年度の取り組み

合言葉は **全員がパイロット教員になろう！**



全学級週1時間の「ことばの時間」を実施した。

指導はパイロット教員と学年の担当教員のチームティーチングを基本としている。

「言語技術」の指導内容

平成17年度の4つの技術に加えて

- ・様々な角度から物事をみる技術（視点を変える）
- ・構成を考える技術（物語の構造分析）

研究公開（小中合同）

全学級「ことばの時間」で公開。全教諭が指導にあたった。

全教科定期試験における「言語技術」の導入を試みた。

全教科の授業における「言語技術」の導入を試みた。

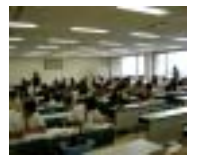
保健体育での発問例

400M Rの一人当たりの記録と100Mのタイムの分析をする。

| | 400M R | ÷ 4 | 100M |
|--------|--------|-------|-------|
| 日本記録男子 | 38秒31 | 9秒58 | 10秒00 |
| 日本記録女子 | 43秒77 | 10秒94 | 11秒36 |
| 世界記録男子 | 37秒40 | 9秒35 | 9秒77 |
| 世界記録女子 | 41秒37 | 10秒34 | 10秒49 |

なぜリレーになると一人当たりのタイムが上がるのか考える。

庄原市内合同研修会などでの演習により普及に努めた。



(3) 検証の指標及び達成目標

検証の視点

「言語技術」の指導内容の定着
コミュニケーション能力に関する意識の向上
学力（読解力）の向上・教科等での効果的な活用
教職員の指導技術の向上

具体的な目標

| 評価する内容 | 評価の方法 | 期待する効果 |
|-----------------|---------------|--------------------------------------|
| 「言語技術」指導内容の定着 | 実態調査 | 80%の生徒が指導内容を理解している |
| コミュニケーション能力 | 意識調査 | 80%の生徒が相手を意識した話し方・聞き方をしている。 |
| 「ことばの時間」の文章力 | 作文添削 | 時間内に課題の作文が書ける。1時間で1000字以上の文章が書ける。 |
| 読解力 | 定期試験 実力テスト | 全教科読解力を問う問題を出し、得点率を80%以上にする。 |
| 話す・聞く能力 | 国語・英語 テスト | 聞き取りテスト、リスニングテストの得点率を80%以上にする。 |
| C R T 検査 | 結果の分析 | 全国平均を上回る。 |
| 総合的な学習の時間における活用 | 意識調査 | 80%の生徒が相手・目的意識を持って情報収集・整理・発信に心がけている。 |
| 指導者の指導技術 | 意識調査 | 80%の教員が相手にわかりやすい発問・指示・板書を心がけている。 |

3 研究の成果と課題

(1) 成果

「言語技術」指導内容の定着

平成17年12月 主語を入れて結論先行で答える 100%
 明確な根拠 65%
 平成18年10月 明確な根拠 90%

聞く力・書く力の向上

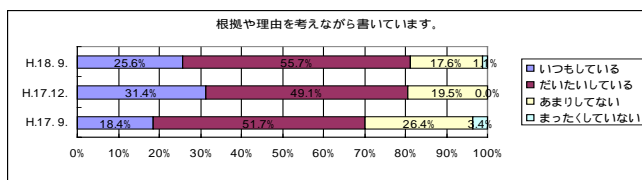
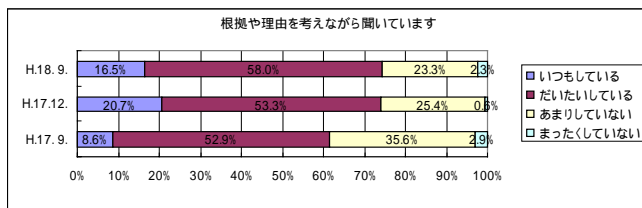
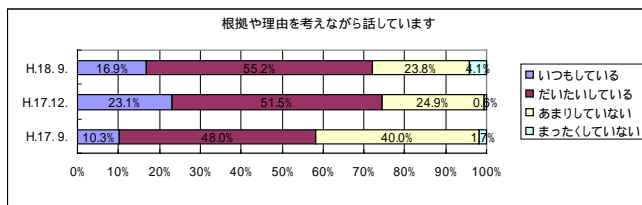
- 平成18年度「基礎・基本」定着状況調査の結果、国語科・英語科の「聞くこと」が県平均より5ポイント高かった。
- 「書くこと」では「ことばの時間」の課題に対して全員が課題に対して書くことができる。3学期の「再話」では2・3年生の90%が1,000字書けるようになった。

根拠を考えてコミュニケーションをしようとする意識の向上

「根拠を考えながら」の項のみを検証した結果、平成17年より平成18年9月の調査ではすべての項目で肯定的評価が10%以上向上した。

平成16年度にはコミュニケーションがうまくできないことによる生徒間の問題もあったが、現在はなくなってきた。

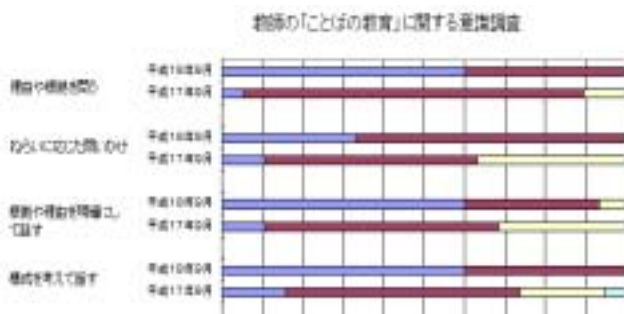
意識調査の結果（全校）



平成17年度の結果は当時の東城小学校6年生と東城中学校1,2年生の合計である。

平成18年度の結果は東城中学校1,2,3年生合計である。

教職員の意識の向上



パイロット校の教職員の意識調査では、上記の4つの項目において、平成17年度はすべての項目で県平均を下回っていたが、平成18年度の調査ではほとんどの項目で「よくできる」「ややできる」と向上した。今年度「全員がパイロット教員になろう」と取り組んできた成果であると考えている。

中学校3年間のカリキュラムの作成

平成17年度と平成18年度は「言語技術」指導が初めてで、全学年同じ内容のものを実施した場合も多い。来年度は学年ごとに6つの「言語技術」を実態に合わせて学習する予定である。東城小学校と連携して、指導のための資料集を作成した。

平成19年度「言語技術」カリキュラム案

| 言語技術 | 1年 | 2年 | 3年 |
|------------|---|--|--|
| 受け答えをする | 楽しい問答ゲーム リレー式自己紹介 | リレー式自己紹介 事業所用自己アピール 自己紹介、電話のかけ方 中学校の制服の是非 中学生が携帯電話を持つことの是非 | リレー式自己紹介 部活動誘 図書館は便利な場所 自己アピール 高校入試の小論文 |
| 要点をまとめる | においの代金 | 真実と偽り | 貸し便所 |
| 情報を正しく伝える | 国旗1 島の絵を描く 机の並べ方 道案内1 旅行の準備 | 国旗2 道案内2 私の部屋 校内放送 写真の説明 | 国旗3、道案内3 修学旅行の持参物 公民館行事、犬の描写 私の家の間取り 主観的を交えて描写 |
| 情報を的確に分析する | デパート（絵） 赤ずきん、たき火 クリスマスの贈り物 待ちぼうけ（絵） ドラえもんの登場人物 映画の分析 | さよならルーネ（絵） 真つ赤な秋 雪中の狩人（絵） 映画の分析 | グランド・ジャット島 の日曜日（午後）（絵） 灰色の畑と緑の畑 |
| 様々な角度 | 赤ずきん | 夜道 | ハンネスがい |
| 構成を考える | 桃太郎 | 三匹の子豚 | ジンギスカンと鷹 |
| 朗読 | トロッコ | 走れメロス | 故郷 |

(2) 課題および来年度の取り組み

生徒の読解力の向上

平成17年度のCRT「読む能力」は全学年全国平均より低かった。平成18年度はかなり向上したが、全国平均と同じかやや下回る結果であった。「言語技術」導入による読解力の向上が顕著にはみられなかった。「言語技術」指導の中に「文章を読む」活動がないので、来年度はじっくり文章を味わって読むことを取り入れたい。

読み聞かせや朗読の指導を取り入れる。

話す力

生徒の「話す」意識が平成18年度になって下がっている。学校生活の中で「型」に沿ったコミュニケーションは円滑にできるようになり、受験時の面接でも応用できるようになった。しかし、社会生活の中で相手を意識してコミュニケーションをとることはできていない。

総合的な学習の時間などにプレゼンテーションやスピーチを取り入れる。

全教科での「言語技術」の導入

「言語技術」を導入した教科指導については充分研修できなかった。

教科で導入できる言語技術の柱を検討する。